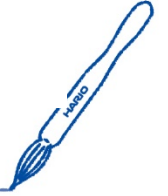


アイ アム only Japanese、、

Written by Sales Dept. Y.Kashiwabara



過去に保育園の保護者より、開口一番、「え、どこのハーフ？」と私と娘を見てストレートな質問を受けた、というエピソードを、後日、奥さん伝いに聞いたことをふと思い出した、8歳女兒の父親の話です。

最近は、「ハーフっぽい＝ちょっと目鼻立ちがはっきりしてきたってこと？」と、ポジティブに受け取ることにしています（笑）

今回は、数週間前に体験した、ちょっと心が温くなったエピソードです。

東京メトロ東西線の車内でのこと。

ヨーロッパ系と思しき若いカップルが、当然のように英語で私に話しかけてきました。

何を言っているのかまったく理解できずにいると、すかさずスマホを取り出し、私に画面を見せてきました。その時は英語表記だったためピンと来ず、そこで一度、隣の駅で一緒に下車して、落ち着いて確認。

ようやく目的地が「東京駅地下の Tokyo Character Street」であることが判明しました。

身振り手振りで「大手町駅で降りれば行ける」ということはなんとか伝わったものの、あの辺りは、“地下の迷宮”。

そこで、今度は大手町駅で一緒に下車し、駅構内のマップの前で、身振り手振りとスマホの翻訳アプリを総動員して、道順をなんとか伝えることができました。

彼らは「アリガトウゴザイマス！」と笑顔で頭を下げ、私は拙い発音ながら「ハブ、ア、ナイス、トリップ！」。伝わったかどうかは分かりませんが、観光客の笑顔に、救われた気がしました。

最近「オーバーツーリズム」という言葉を耳にすることも増え、観光客の急増による混雑やマナーの問題で、私自身も「迷惑だなあ」と感じることもあります。

裏を返せば、それほど日本は、海外の方にとって魅力的に映っているということです。

確かに、円安の影響もあるかもしれませんが、日本の「食」「文化」、そして「人（＝おもてなし）」の魅力が、世界中の人々を引きつけているのだと思います。

自分もその一端を担えたようで、少しだけ誇らしい気持ちになりました。

科学も技術も、最終的には「人のためにあるもの」。

そして“人と人とのつながり”は、時に言葉を超えて心に届くものだと、改めて感じました。

娘が「英語を学んでおいて良かった！」と思ってもらえる日が来るように、当面はファミマのフラッペで釣り続けなければならないと、あの日ほど強く思った日はありませんでした（笑）

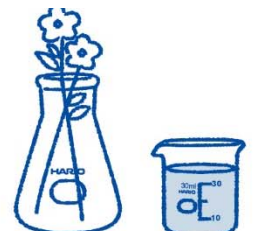


ハリオサイエンス 株式会社

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9-3

<https://www.harioscience.com>

TEL.03-6861-5602 FAX.03-6861-5603



harioscience